

断面

コンサート「香音の時」

「五感」を開く音楽の効果

音楽と香りを同時に楽しめるコンサート「香音の時」が6日、東京・銀座で開かれました。

香りとの共演

出演は、バイオリンソートの吉田恭子さんと元アナウンサーでアロマセラピストの大橋マキさん。2006年に映像と音楽で「いわさきちひろと吉田恭子の世界」を企画した吉田さんも、「香り」と音楽の共演は初めてといえます。

会場には、アロマオイルを霧状にして広範囲に

拡散する芳香器が置かれ、漂う木々の香りで森林浴をしている気分になります。前半は「自然」、後半は「愛」がテーマの2部構成で、休憩時間に

「人は経験した五感を使って音楽を表現します。たとえば、「きらきらした音は目、「甘い音」は口、「ザラザラした感じ」は手。ほかに丸み、温かさ、乾いた感じなど、子どものころから音楽にふれると想像力が膨

らんで心豊かに育つと思います」

子どもものの感性

テレビ局を退職後に英

国へ留学した大橋さんは、植物療法を学び、病院で7年間、アロマセラピストとして活動。現在の2歳の女の子を育児中の

大橋さんは、「子どもは気持ちいいことを見つけてるのが上手」といい、子どもものの感性の鋭さやほかの「五感を開く音楽の効果」について語りました。

第2部のテーマは「愛」でクライスラー、コルンゴルト、シューマン、ブラームスを演奏。吉田さんから「上質なシルクのリボンのイメージで」との注文があったという「香りのレシピ」は、ネロリ、ゼラニウム、ローズウッドなど。最後に「一途な愛」を表現した3つめの香りも披露され、聴覚と、きゅう覚が刺激されたコンサートでした。

(中村尚代)



バイオリンを演奏する吉田さん(中央)と、香りを演出した大橋さん(左)(三好英輔撮影)